

2024年(令和6年)

11月27日

水曜日

日刊工業新聞

本社(TEL)03-5644-7000東京都中央区日本橋小網町14-1/西日本支社(TEL)06-6946-3321大阪市中央区北浜東2-16/名古屋支社(TEL)052-931-6151名古屋市東区泉2-21-28/西部支社(TEL)

ナプラなどに奨励金

発明振興協会 交付先3件決定

日本発明振興協会(東京都渋谷区、石井卓爾会長)は、2024年度の発明研究奨励金の交付先3件を決定した。ナプラ(東京都葛飾区、関根順子社長)の「金属粒子」、基礎電線(埼玉県吉川市、田中友則社長)の「エナメル線の製造方法」にそれぞれ100万円を、葛西章史氏の「除排雪判断支援システムおよびプログラム、道路管理方法」に96万2500円を交付した。

ナプラが開発したスズ(Sn)-銅(Cu)金属間化合物(ICMC)を活用した接合材は、顧客での実装評価と信頼性試験で良好な成績を収めている。今後、製品ごとの特性評価を実施し、高温耐性が求められるパワー半導体向けなど、ICMC接合材の事業拡大につなげる。

葛西氏は情報通信技術(ICT)と青森市営バスが公開する遅れ時間などのオープンデータを活用し、データに基づいた効率的・効果的な除排雪判断支援システム開発のためのプログラムを試作する。同システムは青森以外での活用も期待できる。

基礎電線は、複数のカーボンナノチューブ(CNT)の集合体である導体から20-100μm程度の長尺のCNTエナメル線の製造を実現した。軽い、高温下でも電気抵抗が増加しない特徴を生かして産業・航空宇宙分野への応用が期待される。モーター、非接触コイルなどへの試料提供を始めている。